

(座談会)「新年を迎えて

したいこと いろいろしたいこと

— われら20代 —

井上のりえ、大崎利恵子、大多和檀、河井祥子、川村礼子、別役富美子、前田陽子、松井とし

— 『幼児の教育』第七十三巻第一号

(一九七四年) から —

A (略) どなたか口火を切ってどうぞ……。 (略)

B 私は今、公立の幼稚園に勤めてますけれど、

(略) 学校のことなんかどこかへとんじやったよ
うな気がします。もちろん現場で、学生時代に習
ったこともうんと生きているとは思ってますけれ
どね。 (略) あっという間に今、六年目なんです。

C 本当！ ここまできちゃったか、よね。

* * *

A (略) 幼稚園の先生とか、幼稚園とかっていう
ことをぬいて、いろいろしたいことかしたいこと、
はありませんか。 (略)

E (略) 自分の私的な生活と幼稚園の生活を切

りはなしてた自分があった、そうするとおかし
いことになってたような気がする。 (略)

C 切りはなすと苦しかったの？ (略)

E う……ん、幼稚園で生きられなかったわけ、
要するに。 (略) 今は、私、相当程度、生きられ
るっていう実感があるからいられるの。 (略)

C (略) Eさんが、そこで自分が生きられるって
いうのは、 (略) 自分が出せてないっていうのか、
自分らしさでもっていられるんじゃないのが、

だんだんと自分が、ありのままとまでいかな
くても、わりと自分らしくいられる、気安くい
られる、そういう、そんな感じじゃないかな。

E 気安くいられるから、苦しくてもその苦し
さが充実したものになってくるっていう感じ。 (略)

F (略) 毎日子どもたちと同じように、今日
はどうやって生活しようかしらっていう楽しさ
をもつて幼稚園に行きたいと思うわけね。 (略) 本当は、
自分の生活と幼稚園の生活っていうのは、輪
になって回転するわけじゃない？ (略)

C 私、二年目ぐらいの時ね、いやでいやで、幼

園なんかもういやだ、って思ってた大体私と同期の人もそうだったの。顔合わせると、求人欄を見てるっていうの。(略) 夏休み中、ともかく私なんて本当に子どものことなんて忘れちゃってたし……。(略) 九月一日に大掃除で、(略) 何かとつきに名前が出て来ないの。(略) それぐらいなのに、その翌々日が始業式で、子どもたちと会っていると、やっぱり、いいなあ! と思うものがあるわけね。(略) 私、一年目なんか、夏休み前はばててもうだめだーなんて思ってたでしょ? それが夏休みが終わったとたんにごく生き生きしちゃうって、子どもたちとも元氣よく遊んじやってね。(略) H (略) 自分が生き生きとしたものを出せれば、子どもと会っている時に向うも生き生きとしたものを出してくるんじゃないかと思うの。(略) F (略) 私も夏休みは徹底して遊ぶ方だから本当に夜半まで遊ぶわけ。(略) そして今度九月になった時、(略) 子どもと出会った時の何ともいえないうれしさとか楽しさ、それが何かすてきれないものがあると思うんです。(略)

D 私、今も二年でやめようと思ってるけれどね。三年ぐらいいたら、すごい魅力のある職場でしょう? やめられなくなっちゃうんじゃないかっていうことがこわいの。(略) 子どもはすごく可愛いから、きつとやめたって夏季保育にはくるだろうし、秋になって何かあったらくるだろうとかね。(略) G (略) 結局ぬけきれなくなって、幼稚園くさいところがくさくさなくなってわかんなくなっちゃやうの。それでそれだけの世界で満足しちゃう。F 幼稚園だけじゃない生活っていうのはいやだと思っの。(略) B 私も一時期あったの、いやでいやでぞーっとするっていう……。でも今は、結婚しても、子どもができて、それこそ足腰たたなくなるまで幼児教育ってものをやりたいなって思ってるの。(略) C (略) 保育と自分と、もう一つつなぐものは何かっていうと、せまくいえば日本、大きいいえば世界だし、それがどういうふうに動いているかによって自分というものもあるし、日本の幼児教育もあると思うの。この三つを、どういうふうにしてって

考えるとしても中心は自分なの。この中心になる自分がどうして生きて行くかっていうところ、夏休みはそこが課題で、たえずそこをつきつけられて、子どもの問題で困った問題、なんていわれても出てこなかったわけ。(略) 二学期になって子どものようすを見てたり、こんな子どもたちにしたくないなんて考えてると、グループを作ってこんなことをやりたいなんて考えるようになるの。そうすると、実際にどうしたらいいだろうか、去年はどうだったろうかとか、たちまち日々の保育の細かいことが、ペアツと頭にのぼってくるの。(略)

* * *

A (略) 楽しいっていうのは？

H 私は、理くつ抜きに笑えるっていうことが大人じゃ出てこない、それが出てくるっていうところが楽しい。(略) 自分が何か心にかけて一生懸命やっていると、必ず見えてくるっていう時があるのね。その時に、はっと自分の存在を感じるそういう楽しさもあると思うの。(略)

B (略) 子どもにもっとこういうことをしてほし

い、つかませたいとか、ちょっと楽しいっていう言葉とは違うんだな。だから、楽しい園生活、楽しい私と子どもの生活、じゃなくて、もっときびしいの。(略)

D 自分をぶつけるわけでしょう。ぶつけるっていうことはすごく苦しいことで、楽しいこともあるけれど苦しい時間というのが大きいわけ。(略) でも先に何かあると思えるの。(略)

F (略) 去年人がもったクラスを私があつたの。(略) それで一つ一つやるたびに、そうじゃなかったよとか、子どもにとってはささいなことなんだけれど、こっちにしてみれば考えてやったことの反応がそれだとカチンとくるわけよ。(略) より所はどこにもなくて自分にきびしく返ってくるわけね。(略) それは誰も教えてくれないし、教えてくれても技法だけだし、結局自分しかないっていうそういうつらさがあって、だけどその中で自分が生み出していくわけじゃない？(略) 子どもと接して返ってきた喜びが好きじゃなわけ。だからつらくても何とかして、自分のやり方を生み出すわ

けね。(略)でも今もっている苦しみをのりこえた時には、また楽しさがあると思うの。やっぱりそれが好きで、それが私の生き方だと思う。(略)
D (略) この辺の底の方で喜べる喜び、というよ
うなものはやっぱり他の仕事じゃだめだなんて思
うの。(略)

* * *

A (略) 一言ずつ最後に、そして文句なく今あなた
がしたいことをつけ加えて回してください。(略)
G (略) あと戻りはできないし、だからこれから
私はこうやっていかなくちやいけないのになって、
わからないながら、私としての道をさがさなければ
って思っています。したいこともこれです。

F (略) やっぱり皆同じなんだなって(略)した
いことは、大和路と木曾路を合わせて歩きたい!!

D (略) したいこと。遊べる人間、女になりたい
と思うの。それから幼稚園だけが子どもにいる所
じゃないって感じがすごくあるの。(略)

B (略) 六年目で、私もどの辺からずっとこれを
続けるっていう気になったのか、その気持ちを整

理しなきゃ(略)やりたいことは、土曜日の午後だ
し、ブラブラと歩きたいなあと思ってるの。

E (略) やりたいことをやりたい! 私、今苦しい
っていったけれどすごい充実感もあるの。それは
なぜかっていうと、自分が何も考えないでぶつ
けて返ってきたものだから、それを大切にしたい(略)

H (略) スキーを(略)リラックスしてどんな
すべれるようになりたいな(略)やっぱり悩むと
ころは、新卒の人と変わらないなって感じ。そして
これからも悩みながらまたいくんじゃないかしら。

C (略) 自分の生き方なり何なりは社会に無関係
ってことはありえないし、真の子どもらしい姿と
はどんなものだろうかっていうことがわからない、
(略) だから六年間やってきたことをまとめる時
間がほしいの。

A (略) 一人一人ちがう人なのに、やはり子ども
と共にいる大人・保育者として共通のものがある
ということ、けれどその反面、一人一人がその人
として、一生懸命やっているのだということを感じ
ました。(略)